国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

平成 28 年 6 月 15 日
四国地方整備局
小松島港湾・空港整備事務所

土木学会　平成 27 年度「技術開発賞」受賞

１．概要

平成 28 年 6 月 10 日に開催されました、土木学会平成 28 年度提示総会において、（公社）土木学会 平成 27 年度技術開発賞を、早稲田大学 清宮教授を代表者として、京都大学 間瀬教授、日立造船（株）仲保部長、（一財）沿岸技術研究センター 八尋審議役（当時）、小松島港湾・空港整備事務所 佐野所長の 5 名が「無動力・人的操作不要で自動閉塞を可能とした津波・高潮用フラップゲート式陸閘の開発において受賞いたしました。

技術開発賞は、計画、設計、施工または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて社会に貢献したと認められるものに授与される賞です。

２．今回受賞した事業の概要

四国地方整備局では、撫養港海岸（鳴門市）において、南海トラフを震源域とする地震による津波から、学校、病院などの公益施設や人口が集中している鳴門市の中心エリアを守ることを目的として、老朽化した堤防の嵩上げ及び液状化対策等を実施するほか､東北地方太平洋沖地震から得た教訓から、陸閘の電動化や自動化を実施しています。

今回受賞した、フラップゲート式陸閘は、東日本大震災で水門閉鎖等に向かった多くの方が殉職された事を踏まえ、開発された技術で、津波・高潮災害時に浮力を利用して無動力・全自動で起立することにより、浸水被害を防止するものです。

この技術の効果としては、以下の点が挙げられます。

①操作者が危険にさらされる事がなく、操作ミスや操作遅れなどによるリスクを回避。
②電源喪失時、通信インフラ被害時にも問題なく作動。
③浸水直前まで避難路として利用可能。
④従来方式と比較して維持管理費を大幅に縮減。

フラップゲート式陸閘については、撫養港海岸桑島瀬戸地区直轄海岸保全施設整備事業において、4 基設置しており、平成 27 年 10 月と平成 28 年 5 月の 2 回の起動確認に併せて見学会を開催し、地元自治体関係者、自主防災会等の関係者、地元小学生や報道関係者など延べ 100 名を超える方々に見学頂きました。

今回の受賞を糧として、本事業の平成 28 年度末の完成を目指して整備を推進して参ります。

【問い合わせ先】
国土交通省　四国地方整備局
小松島港湾・空港整備事務所　　TEL：0885-32-3357　FAX：0885-35-0010
副所長　　新見　泰之　　　沿岸防災対策官　大野　誠彦